

れきはく NEWS

vol.52
2021.JUN

島根県立古代出雲歴史博物館の
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo

CONTENTS

- 2 子ども／おもちゃの博覧会
- 4 展覧会通信
- 5 館長新任あいさつ
れきはく通信
- 6 埋蔵文化財調査センター通信
- 7 古代文化センター通信
- 8 歴博の新型コロナウイルス感染症対策
ミュージアムカフェ maru café



特別展

子ども／おもちゃの博覧会

令和3年7月2日(金) ▶ 8月22日(日)



【特別展】

子ども／おもちゃの博覧会

会期 令和3年7月2日(金)～8月22日(日)

◎開館時間／9:00～18:00 ※最終入館は17:30となります

◎会期中の休館日／7月27日(火)・8月17日(火)

会場 島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

主催 島根県立古代出雲歴史博物館

共催 国立民族学博物館

本展では、国立民族学博物館が所蔵する「玩具及び関連世相資料」(大阪府有形民俗文化財)を中心に、江戸時代から昭和時代にかけての様々な資料をおおして、おもちゃの歴史を紹介するとともに、社会と子どもたちの関係について考えてみたいと思います。

I

玩具と時代と子どもたち

各時代の玩具をピックアップして展示します。展覧会への期待感をもっていただくとともに、いつの時代も、子どもたちは遊び続けていることを象徴的に展示します。

II

江戸時代の玩具

子どもの健やかな成長を願う気持ちや愛情は、江戸時代も今と変わらず、大人の大きな関心ごとでした。そこで、子どもの成長を祝う玩具や子どもが喜ぶような娯楽性に富んだ玩具が作られました。

主な展示品 ●五月人形(大将鎧) ●ふくら雀



ふくら雀



五月人形(大将鎧)

III

時代と玩具

明治時代以降、政府による全国一律の教育など諸制度の整備や、海外からの新たな知識や技術を導入したことにより、社会は大きな変化を遂げました。玩具も同様に、ブリキなど新しい素材を用いた玩具、自動車や飛行機など新しい乗り物に関する玩具、新しい職業に関する玩具、教育目的のために開発された玩具など、新しい玩具が次々に生み出されました。

主な展示品 ●電車(昭和号) ●国史百首かるた



国史百首かるた



電車(昭和号)

IV

戦争と子どもと玩具

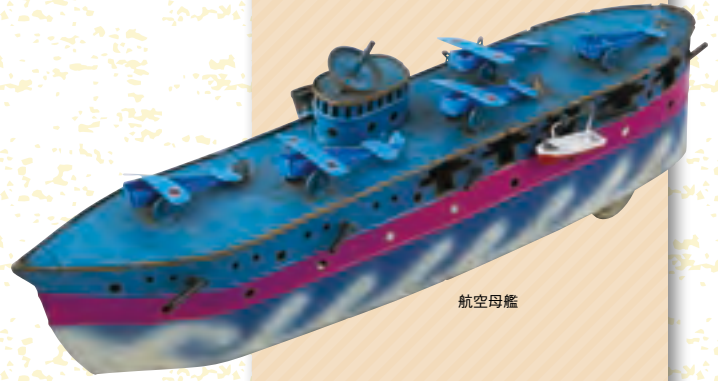
明治時代以降、第二次世界大戦に敗れるまで、日本は幾度かの対外戦争を経験しました。富国強兵政策のもと、しだいに軍国主義的な思想へと傾倒していった当時の世相を色濃く反映し、戦争を題材にした玩具が数多く登場します。戦争ごっこなど、子どもたちの遊びにも大きな影響を与えました。

主な展示品

- 機関銃を撃つ兵士
- 航空母艦



機関銃を撃つ兵士



航空母艦

V

戦後の玩具と子ども

敗戦後に高度経済成長期を迎えた日本では、様々な工業技術や科学技術が発達し、社会が大きく変化しました。新しい技術や材料を用いた玩具が数多く生み出されたほか、マスメディアの発達によるテレビ番組のキャラクターを題材にした玩具が登場します。

主な展示品

- お猿のサンボ
- フラフープをする少女



フラフープをする少女



お猿のサンボ

スポット展示

ファッションドールにみる流行史



初代リカちゃん

日本の少女たちに、より身近に感じられるようなファッションドールとして発売されたリカちゃん。各時代の流行を取り入れながら50年以上製造されています。リカちゃん人形からは日本の少女たちのファッション史が見て取れます。

■協力：一般財団法人日本玩具文化財団

主な展示品

- 初代から4代目のリカちゃん
- リカちゃんハウス『ドリームハウス』



リカちゃんハウス『ドリームハウス』

© TOMY

●新型コロナウイルス感染症の状況により、日程や内容等が変更になる場合があります。最新の情報は当館ホームページをご覧ください。

こちらもおすすめ！ 特別展関連催事

関連講座

玩具と子どもをめぐる社会と歴史

- 日時／7月3日(土) 10:00～12:00
- 講師／笹原 亮二氏
(国立民族学博物館教授)

(会場)

古代出雲歴史博物館
講義室

定員 60名
参加 無料

講座に参加される際は、マスクの着用をお願いします。

関連イベント

第1回

しょうのう船を作ろう！

- 日時／7月25日(日)
〈午前の部〉10:00～11:00
〈午後の部〉14:00～15:00
- 参加費／200円

第2回

日光写真を作ろう！

- 日時／8月8日(日)
〈午前の部〉10:00～11:00
〈午後の部〉14:00～15:00
- 参加費／200円＋特別観覧料

(会場)

古代出雲歴史博物館
体験工房

各回
定員10名

イベントに参加される際は、マスクの着用をお願いします。

関連講座・体験イベントに参加をご希望の方は、下記の方法でお申し込みください。

- お申し込み方法
電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかで事前にお申し込みください。
- お申し込み先
〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
古代出雲歴史博物館
TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350
<https://www.izm.ed.jp>

【個人情報の取り扱いについて】
この申し込みによって収集した個人情報は、島根県の規定に従って取り扱い、関連イベント・講座開催の目的にのみ利用するほかは、法令に定めがある場合を除いて、第三者に提供することはありません。

企画展

COME on 山陰弥生ライフ

— 米作りはじめました —



弥生時代の水田の様子 (原画：早川和子)

◎会期／令和3年9月17日(金)～11月14日(日)

■開館時間／9:00～18:00(11月は9:00～17:00) ■会期中の休館日／9月21日(火)・10月19日(火)

◎会場／島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

◎主催／島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター

米作りによる田園風景は、日本列島各地の四季を彩る重要な景観です。

米作りは、今から3000～2800年前頃に朝鮮半島から北部九州に伝わり列島各地に広まりました。山陰地方は、日本列島の中でも早い段階にイネ等の穀物が入っていることが近年の調査によって明らかになってきました。日本海を通じた交流によって稲作文化に関する様々な文物がいち早く入ってきたのです。

そして、各地との活発な交流を通じて農耕社会を熟成させた結果、山陰では、特徴ある青銅器文化が開花し、四隅突出型弥生墳丘墓に代表される王墓が誕生しました。



米作りが始まった頃の土器
(埋蔵文化財調査センター所蔵)

本展覧会では、山陰地方や周辺地域の縄文時代の終わり頃～弥生時代の始まりにかけての人々が残した文物を中心に紐解きながら、米作りが始まった頃の人々の生活や交流の具体像に迫りたいと考えています。

このたび、当館の館長に就任いたしました多根と申します。どうぞ、よろしく申し上げます。

4月から、毎朝、朝日に照らされた北山山系の新緑を眺めながら通勤し、到着して広々とした敷地に亀山を背にして立つ当館の建物を見るたび、その景観の素晴らしさを感じています。

また、先日は、元興寺文化財研究所での補修作業が終わって当館に戻ってきた国宝の銅剣の受け入れ作業を見る機会を得、本物の迫力に圧倒されるとともに、精緻で緻密な保存・修復作業に驚きました。

当博物館を整備する契機となった、この貴重な文化財を目の当たりにし、「島根の特色ある歴史・文化の調査

研究と成果の発信」、「歴史と文化を生かした人づくり、地域づくりへの貢献」という当館の使命の重さを改めて感じたところです。

全国的なコロナ禍の影響で、現在、当館にお越しただく方が少なくなっており、当館の素晴らしい収蔵品や研究成果を、多くの方に見ていただく機会が減っていることが残念ですが、このような状況下でも、ご来館いただいたお客様に満足していただき、また次も訪れたいと思っただけのよう、職員とともに取り組んでまいります。

どうぞよろしく申し上げます。

れきはく通信

常設展示室ミニ企画

後鳥羽上皇遷幸八百年記念
後鳥羽上皇と隠岐

◎会期

令和3年6月16日(水)～8月16日(月)

◎会場

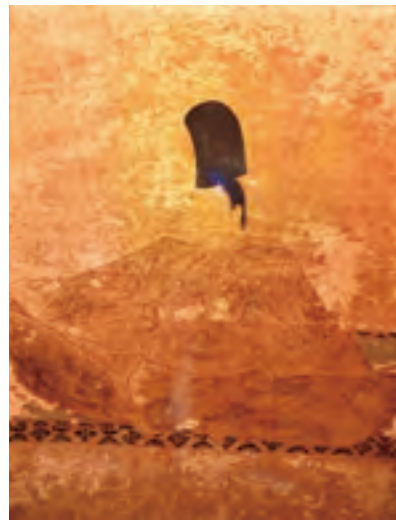
古代出雲歴史博物館 常設展示室

◎特別協力／隠岐神社

新古今和歌集の編さんで知られる優れた文化人であった後鳥羽上皇は、鎌倉幕府への対抗意識を燃やす政治家でもあり、承久3年(1221)に鎌倉幕府執権の北条義時の打倒を目指して挙兵します。しかし、この承久の乱に朝廷軍は敗れ、上皇は隠岐国海士郡荻田郷(現在の島根県隠岐郡海士町)に流されました。結局、帰京を許されることなく、在島十九年目の延応元年(1239)に上皇は六十歳の波乱の生涯を閉じました。

令和3年(2021)は後鳥羽院が隠岐国に御遷幸されて八百年目に当たります。都から遠く離れた隠岐で上皇が何を思い、そして島民がどのように上皇の御霊を慰めてきたのか、隠岐神社の所蔵品を中心に、その歴史をたどります。

観覧には常設展観覧料またはパスポートが必要です。



後鳥羽院像／隠岐神社蔵(複製品、原品…水無瀬神宮蔵)

展示品
(予定)

- ①後鳥羽院像(複製・隠岐神社蔵)
※原品は国宝水無瀬神宮(大阪府)蔵
- ②吾妻鏡(寛永3(1626)年版・島根県立図書館蔵)
- ③遠鳥御歌合(江戸時代・当館蔵)
- ④後鳥羽天皇七百年祭奉納御太刀 月山貞光 作
(昭和14(1939)年・隠岐神社蔵)
- ⑤後鳥羽上皇宸翰手印置文(複製・隠岐神社蔵)
- ⑥後鳥羽院木像図
(明治時代初期・海士町教育委員会委蔵[村上家文書])
- ⑦狛犬 平櫛田中 作
(昭和14(1939)年・隠岐神社蔵)

◎島根県埋蔵文化財調査センターの発掘調査成果について

姿を現した朝酌の渡わたり — 朝酌矢田Ⅱ遺跡 —

島根県埋蔵文化財調査センターでは、令和2年度国土交通省の大橋川改修工事に伴い、松江市朝酌町矢田地区で発掘調査を実施しました。矢田地区は、市街を貫流する大橋川が最も川幅を狭める北岸に位置しています。ここには今も「矢田の渡し」があり、対岸に渡るための船が一艘待機しています。長らく地域の人々の足を支えてきた、いわば公共交通機関の一つです。また矢田地区は、10年に一度の船神事「ホーランエンヤ」に「權伝馬船」を繰り出す五大地のうちの1つでもあります。

船との歴史が深い矢田地区ですが、それは古代にまで遡ります。奈良時代に編纂された『出雲国風土記』には、「朝酌渡」が登場します。これは、出雲国府と隠岐国を結ぶ官道「枉北道」が入海（今の大橋川）を渡河する地点に設けられた官営の渡し場です。当地は水陸両交通が交わる要衝で、人や物が行き交い、漁労が盛んで市が開かれていたことが風土記から読み取れます。その活気に満ちた様子は、当館のテーマ展示室の模型展示で見ることができます。

風土記記載の「枉北道」は、松江市が調査した魚見塚遺跡（松江市朝酌町所在）で、その一部と考えられる道路遺構が確認されています。一方、渡し場の実態についてはほとんど不明でしたが、今回の調査で状況が一変しました。「矢田の渡し」からすぐ

近くにある朝酌矢田Ⅱ遺跡で、極めて保存状態の良い護岸状の石敷きが姿を現したのです。石敷きはすべて人の手によるもので、石と一緒に多量の須恵器片が混ぜられていました。須恵器は7世紀後半から8世紀代と、まさに風土記が書かれた時代のもので、石敷きが敷設されたのはこの時期と考えられます。石敷きは、スロープ状に川側に向かって緩やかに傾斜していることから、船着き場や荷揚場といった機能をもっていたのでしょうか。土錘等の漁具も出土しており、当時の人々の生業も垣間見えます。

石敷きは調査区外にも広がっている可能性が高く、大規模な労働力と当時の最新技術が投入された工事であったことは想像に難くありません。つまり古代国家によるインフラ整備であり、初めての大橋川改修工事とも言えます。

以上を総合すると、今回発見された石敷きは、『出雲国風土記』に記された「朝酌渡」の一部と考えられます。古代の官営の渡し場としては、全国で初めての発見です。朝酌矢田Ⅱ遺跡の調査により、古代の土木技術や交通・交流の一端が明らかになりました。そして矢田地区には、約1300年前の景観を想起できるほどに、今も固有の歴史的風土が息づいています。

■埋蔵文化財調査センター 主任主事 岩崎 孝平



空撮写真（東から）



姿を現した石敷き遺構

◎島根県古代文化センターの調査研究・情報発信事業について

島根県古代文化センター
刊行物のご案内

古代文化センターでは、令和元年に実施した講座・シンポジウムの記録集、テーマ研究の報告書、『出雲国風土記』写本の写真集を刊行しました。

※印のある書籍は島根県文化財愛護協会（連絡先：0852-22-6612 島根県教育庁文化財課内）にて販売しています。その他の書籍は一般書店で購入できます。



①『しまねの古代文化 第28号』※

浜田の歴史を中世の湯湖からひもといた高橋一樹先生の講演、また隠岐を襲った津波の歴史について、地質学と古文書から検討した「隠岐の津波」ほかを取録しています。

●A5版 82頁／税込価格800円



②『古代出雲ゼミナールⅦ』

令和元年に東京で行われたシンポジウムの「出雲と大和」の内容を中心として、弥生時代から古墳時代にかけての出雲と大和をテーマとした講座の記録など、合計8本を取録しています。

●B6版 242頁／税込価格1,100円



③『山陰弥生文化の形成過程』※

山陰地域でいつ頃、どのようにして弥生文化＝稲作を基盤とする文化がはじまったのかについて、土器・集落・墓・農耕の様相や交流のありかたから総合的に論じた研究報告書。14本の論文を掲載しています。

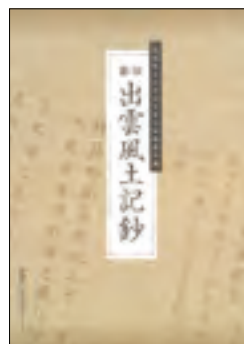
●A4版 370頁／税込価格2,000円



④『日本書紀と出雲観』

神々の国とされる出雲、そのような出雲に対するイメージが、いつどのように形作られ広がったのか、そのもととなる『日本書紀』が作られた古代から近代に至るまで、各時代の研究者の20本の論文を取録しています。

●A4版 286頁／税込価格2,200円



⑤『島根県立古代出雲歴史博物館所蔵 影印 出雲風土記鈔』

奈良時代に記された『出雲国風土記』も、現在に残るのはその写本です。古代出雲歴史博物館所蔵の写本は、島根郡の神社が補訂されたいわゆる補訂本系写本の最古のものになります。写本全丁の写真と解説の論文2本を掲載しています。

●A4版 129頁／税込価格1,650円

歴博の新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策について、当館ではお客様に安心してご覧いただけるよう、引き続き、様々な取り組みを行っております。大変ご不便をおかけしますが、ご協力くださいますようお願いいたします。



お客様一人ひとりの検温やご連絡先の確認



展示ケース等の定期的な消毒



神話シアターの利用人数制限



お客様へマスク着用や消毒のお願い



手で触れて楽しめるハンズオン展示の利用停止



スタッフのマスクや手袋の着用、飛沫防止対策



お客様同士の距離をとっていただき、動線を示すための立ち位置サインとスタンションポール



こんにちは。ミュージアムカフェ、maru caféです。ここは博物館の2階、空中に浮かぶような空間で、周囲の壁は全てガラスとなっていて、どこに座っても周りの景色がパノラマで楽しめるとても居心地の良い空間です。maru caféでは、通常のランチやドリンク、スイーツはもちろん、季節や博物館の展示内容で変わる特別メニューを皆様にご提供しています。その時々でしか味わえない、maru café特製メニューを是非ご賞味ください。お待ちしております〜す♪

募集

博物館カフェスタッフ

館内カフェでの調理、接客、メニュー考案等を行っていただきます。

勤務時間

8:30~17:30 (一ヶ月単位の變形労働時間シフト制)

休日

年間110日 (9~10日/月)

雇用期間

令和4年3月31日まで (令和4年4月1日以降は原則更新)

勤務地

島根県立古代出雲歴史博物館内 マルカフェ 出雲市大社町杵築東99-4

●時給●

840円~

●店長●

910円~

同時募集

*博物館アテンダント

詳しくはお問い合わせください。

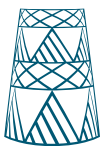
お問い合わせ



一畑電気鉄道株式会社

TEL0852-26-1313 ●担当/影山(平日8:30~17:30)

どこ行く? れきはく!



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
[URL] <https://www.izm.ed.jp> [E-mail] contact@izm.ed.jp
開館時間/9:00~18:00(11月~2月は9:00~17:00)
休館日/第3火曜日(変更の場合有り)



マスコットキャラクター
雲太くん



発行/令和3年6月



マスコットキャラクター
出雲ちゃん